

令和7年度



興田小学校 第3回学校運営支援協議会

日時：令和8年2月25日（水）

10:00~12:00

場所：興田小学校 けやきホール

次 第

進行 副校長

1 開会のことば

2 会長挨拶

3 校長挨拶

4 協議（進行：会長）

（1）令和7年度の学校経営のまとめと新年度構想について（校長）

（2）地域と学校の連携事業について（事務局）

熟議「学校・家庭・地域とのつながりを深めるために」

（3）その他

5 その他

6 閉会のことば

令和7年度 学校運営支援協議会 委員名簿（敬称略）

	グループ	氏名	所属 役職等	備考
1	A	伊東 鉄郎	法人職員	会長
2	A	佐々木 久助		副会長
3	A	佐藤 真由美	一関市議会議員	副会長
4	B	高橋 祐子	主任民生児童委員	
5	B	佐藤 やよい	民生児童委員	
6	B	三浦 政利	民生児童委員	
7	B	佐藤 佐智子	興田保育園 園長	
8	C	板谷 大樹	興田市民センター長	
9	C	小野寺 渉	興田地域振興会 教育文化部会会長	
10	C	武田 寿和	興田小学校 PTA 会長	
11	A	及川 祥子	興田小学校 校長	
12	C	阿部 智央	興田小学校 副校長	

今年度の学校経営について

R8. 2. 25

1 今年度の取組【明日も来なくなる学校 を目指して】

(1)安全安心で楽しい学校

温かな学級経営	いじめアンケート児童年3回、保護者年2回、教育相談年2回 いじめ報告 ■件（解決から3か月経過観察し、解消済み）
避難訓練	年5回 地震・火事・不審者 ※来年度は不審者対応訓練を早い時期に
スクールバス安全指導	年2回
引き渡し訓練	スムーズに実施できた（昨年度は秋だったが今年度は6月に）
熊被害対応講習会	10月 大東支所、千厩警察署の協力を得て
交通安全教室	4月 低学年歩行、高学年自転車
学校保健委員会	2月 学校医、学校歯科医、学校薬剤師、PTA3役 ※来年度は学級役員にも？
縦割り班活動	清掃活動、一緒に遊ぶ会、長縄大会、草取り活動など
あいさつ指導	児童会の取組 ※「自分から」の強化を
不登校対策	生活リズムの確立、保護者との面談など早期対応に努めた 不登校 ■人 別室登校 ■人 遅刻が多い児童 ■名

(2)学ぶ楽しさを感じる学習

主体的に学ぶ児童の育成を目指した校内研究（教科:算数）	※来年度はさらに言語活動の強化を
基礎学力の定着	全国学力調査6年（全国比 国語 ■ 算数 ■ 理科 ■） 県学力調査5年（県比 国語 ■ 算数 ■） 標準学力検査CRT（全国比 国語 ■ 算数 ■）
ICTを生かした授業	各教科で活用（一人1台端末） ローマ字入力状況調査（小3～） 5分間 ■字（市平均 ■字）
自然愛護活動	興田小自然愛護少年団、学校花壇整備、興田川の水質調査など ※来年度は <u>地域の自然</u> にかかわる活動を

(3)家庭や地域と共にあり信頼される学校

PTA活動の充実	環境整備2回、広報「さくら」年2回発行、夏休みプール開放監視など
連携の強化	中学校・保育園・放課後子ども教室
学校運営支援協議会	2年目
地域人材・教材を生かした教育活動	稲作学習、リンゴ学習、小西老人クラブ、山あい工房食育事業など

(4)共に学び、育つ特別支援教育

児童・保護者の困り感に寄り添う教育相談	就学支援・・・R8から ■ 支援学校へ
持てる力を高め生きる力をつける教育	

2 まなびフェスタアンケート・学校評価から(別紙)

3 働き方改革、コンプライアンス遵守に向けた具体的な取組

時間外勤務報告・・・4月から1月 平均 [] 時間 (市の目標 [] 時間)

会議の精選、行事の見直し

自動音声応答システム運用の計画あり (市教委)

コンプライアンス研修・・・毎月職員会議において (道交法遵守、体罰、性暴力、個人情報漏洩など)

4 その他

(1) 創立20周年記念事業

(2) 今後の児童数の見込み

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
全校児童数	57	[]	[]	[]	[]	[]
通常学級数	単学級4 複式学級1	[] []	[] []	[] []	[]	[]
特別支援学級数	2	[]	[]	[]	[]	[]

令和7年度 2学期末まなびフェストアンケート結果

★肯定評価のをした人数の割合
 ※「よくあてはまる」 「ややあてはまる」 ……肯定的評価
 ※「あまりあてはまらない」 「ほとんどあてはまらない」 ……否定的評価

☺ R6,7 肯定評価が高い項目 ↓ 昨年度同時期調査に比べて数値が下がっている項目

	保護者 (家庭での様子)	児童 (自己評価)	学校評価 (保護者)	学校での取組
あいさつ	84.00%	88.00%	挨拶指導 98	あいさつ運動
思いやり	☺ 100	☺ 100	思いやり指導 100	いじめアンケート 縦割り班活動 教育相談
自主性・根気強さ	☺ 96	93		
早寝	82	↓ 64	生活習慣・衛生指導 98	興田っ子学習カード
歯磨き	☺ 90	☺ 93		歯磨きカード 歯科指導
対話	☺ 100			
メディア(テレビ・ゲームの約束)	↓ 73	84		学級指導 NHK動画 中学校区での取組
読書	↓ 51	↓ 77	ことばの力をつける指導 100	目標冊数設定 読書ビンゴ 図書祭り
進んで運動	82	93	運動指導 100	校内マラソン 外遊びの推奨
進んで発表		↓ 64		授業改善 校内の授業研究
授業が分かる		☺ 98	分かる授業 100	授業改善 漢字チャレンジ 百マス計算
学校が楽しい		☺ 95		
自己肯定感		73		

【保護者（声掛けや家庭での児童の様子）】

- ◎肯定評価が高いのは「思いやり」「自主性」「歯みがき」「対話」である。この4項目は、昨年度も高い。
- 一番低いのは「毎日の音読や読書」（51ポイント）。昨年度よりも22ポイント下回っている。
- 「情報メディアの使い方や約束について」も下がってきている。

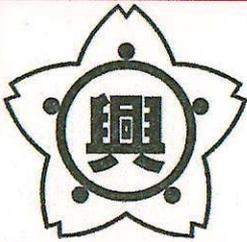
【児童の自己評価】

- ◎肯定評価が高い項目（90%以上）が6項目。
- ◎特に「思いやり」「歯みがき」「授業が分かる」「学校が楽しい」は、昨年度も肯定評価が高かった。
- 「進んで自分の考えを発表する」「早寝」が肯定評価6割。
- 「読書」については、保護者同様にポイントが下がってきている。

【保護者からの学校評価】

◎どの項目も、学校の指導に対して高い評価をいただいた。今後も信頼していただける学校経営を目指す。

- ・メディアの使い方や約束については、①保護者への啓蒙 ②メディア教育に関する動画視聴推進（NHKfor School）③学級活動、道徳の中での指導 等で継続的に指導していく。
- ・「自己肯定感（自分にはよいところもあると思いますか）」については、個々のよさや頑張りを認めたり、行事での達成感をもたせたりしてながら、高めていく。
- ・読書推進活動には力を入れているが、なかなか数字に表れない。継続して推進していく。
- ・「考えを進んで発表する」については、校内の授業研究でも取り組んでいく。



【 学校教育目標 】

- 思いやりのある子ども(徳)
- 進んで学習する子ども(知)
- 健康でたくましい子ども(体)



豊かな心と自ら学ぶ力をもち たくましく生きる子どもの育成

安全安心で楽しい学校

- 教職員全員で児童を育てる教育体制
- 認め合い、支え合う温かな学級経営
- いじめを許さない指導の徹底
- 縦割り班活動での異学年交流活動
- 年間通しての明るいあいさつを目指す取組
- 家庭との連携を大切に健康教育の推進
- 安全・防災教育と安全点検の徹底

学ぶ楽しさを感じる学習

- 主体的に学ぶ児童の育成を目指す校内研究
- 基礎学力の定着を目指すチャレンジ学習
- 読書教育の推進
- ICT 機器のよさを生かした授業
- 体験的な活動を取り入れた学習
- 自然愛護活動の充実

明日も来たくなる学校

小規模校の強みを生かして

共に学び、育つ特別支援教育

- 児童、保護者の困り感に寄り添う教育相談
- 全職員の理解のもと進める特別支援教育
- 多様な学びの場での学習(交流学习の充実)
- 持てる力を高め生きる力をつける教育

家庭や地域とともにあり
信頼される学校

- 家庭・地域、保育園・中学校との連携強化
- 学校運営支援協議会 発足3年目
- 地域への情報発信(学校報 地区全戸配布)
- 地域人材・地域教材を活用した教育活動

めざす子ども像

なかよく(人間関係形成力)

- 進んであいさつができる子
- 思いやりをもち助け合う子
- 互いのよさや考えを認め合う子

かしこく(問題解決力)

- 集中して学習に取り組む子
- 自分の考えを持ち 進んで表現できる子

たくましく(実践力)

- 早寝をして元気に遊ぶ子
- 安全・衛生に気をつけて行動できる子



令和8年度 一関市立興田小学校 学校経営計画

1 経営理念

- 学校は、子どもたちが、自分の「今」や「将来」を幸せに生きていくための「生きる力」を身に付けるための場所です。また、「変化の大きい社会に柔軟に対応し、人と社会と自然環境等と協調しながら、豊かに生きていくための資質・能力を育成すること」や、「学びの風土を礎に、心豊かにたくましく 郷土の誇りを未来につなぐ人づくりをすること（一関市教育振興基本目標）」が求められています。
 - ・コミュニケーション力の低下が心配される昨今、子どもたちが、身近な友達、家族、先生、地域の方々・・・などとの生きた関わり合いのなかで学ぶことは大変大きいものです。**温かな人間関係を築くためのスキル（様々な経験）を身に付ける**ことは、子どもたちの将来にわたって大きな力となると考えます。
 - ・**社会の変化に対応できる確かな学力を身に付けさせる**ために、興味、関心を高め、主体的に学習する児童を育成していきます。生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養をめざします。
- 本校は、今年度、創立21年目を迎えます。児童数は減少してきており、R8年度は全児童数44名の予定です（1月29日現在）。このような**小規模校である本校は、そのよさを大切にし、小規模だからこそできる指導**を強みにしていきたいと考えます。
- 協力的な地域、保護者や家庭に恵まれている学校です。この**信頼関係をさらに確かなものにしていく**ことが、教育活動を発展させていくものと考えます。
- 文部科学省では「自らの授業力を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な指導をすること」を目的として「働き方改革」を進めています。その観点を大切にしながら、業務改善を行い、先生方が子どもと向き合う時間、授業を創る時間を充実させていきたいと思います。

2 学校教育目標 と めざす児童像

(1) 学校教育目標

豊かな心と自ら学ぶ力を持ち たくましく生きる子どもの育成

思いやりのある子（徳）

進んで学習する子（知）

健康でたくましい子（体）

(2) めざす児童像

【なかよく（人間関係形成力）】

- 進んであいさつができる子
- 互いのよさや考えを認め合う子
- 思いやりをもち助け合う子

【かしこく（問題解決力）】

- 集中して学習に取り組む子
- 自分の考えを持ち、進んで表現する子

【たくましく（実践力）】

- 早寝をして元気に遊ぶ子
- 安全・衛生に気をつけて行動できる子

3 目指す学校像

明日も来たくなる学校

①安全・安心して楽しい学校

子どもたちの豊かな学びのためには、**安心して自分を発揮できる環境が必要**である。そのために、けがや事故を防ぎ、いじめや暴力のない学校、友達との温かな交流があり安心して生活できる学校をめざします。また、小規模校である強みを生かし、教職員全員で全児童を育てる体制を大切にしていきます。

- ・教職員全員で児童を育てる教育体制
- ・いじめを許さない指導の徹底
- ・認め合い、支え合う温かな学級経営
- ・年間通しての明るくあいさつを目指す取組
- ・縦割り班活動での異学年交流活動
- ・安全・防災教育と安全点検の徹底
- ・家庭との連携を大切にされた健康教育の推進

②学ぶ楽しさを感じる学習

未来を切り拓き、変化の激しい時代を生き抜く子どもたちを育むために、できる喜び、分かる喜びを実感できる授業を行い、主体的に学ぶ児童を育成していく学校をめざします。学習内容の定着はもちろん、読書教育、ICT教育、体験的な学習等を通して、学びの基礎を養っていきます。

- ・主体的に学ぶ児童の育成を目指す校内研究
- ・基礎学力の定着を目指すチャレンジ学習
- ・読書教育の推進
- ・ICT機器のよさを生かした授業
- ・体験的な活動を取り入れた学習
- ・自然愛護の活動の充実

③家庭や地域とともにあり信頼される学校

保護者、地域と連携し、共に子どもたちを育てていくことを大切にしていきます。その連携の中で生まれる信頼関係を大切にされた学校をめざします。

- ・家庭や地域、保育園、中学校との連携強化
- ・学校運営支援協議会 発足3年目
- ・地域への情報発信（学校報 地区全戸配布）
- ・地域人材・地域教材活用した教育活動

④共に学び育つ特別支援教育の充実

在籍学級を問わず、支援を必要としている児童が、合理的配慮や適切な支援・指導を受け、将来、自立した生活を送ることを目指して特別支援教育を行います。

- ・児童、保護者の困り感に寄り添う教育相談
- ・全職員の理解のもと進める特別支援教育
- ・多様な学びの場での学習（交流学習の充実）
- ・持てる力を高め生きる力をつける教育

4 目指す教師像 ※「岩手県が求める教師像」より

- ・わかりやすい授業ができ、児童に確かな学力をつけることができる教職員
- ・児童に対する愛情をもち、一人一人の児童と真剣に向き合うことができる教職員
- ・豊かな人間性をもち、幅広い教養と良識を身につけている教職員
- ・子どもを育てるという使命感や責任感をもっている教職員

5 指導の重点

(1) 「思いやりのある子ども（徳）」を育てるために（重点目標1）

①コミュニケーションから生まれる「他への思いやり」と「自尊感情」の醸成

- 互いの人権や多様性を認め合う指導
- いじめを許さない毅然とした指導
- 心をつなげる**挨拶の指導**
- 係や委員会、縦割り班活動等の充実
- 一人ひとりを大切にした学級、授業づくり

自己肯定感 自己有用感

自己肯定感・有用感を高めるために

「学校・学級づくりでは」

- ・学級経営の充実（児童一人ひとりを深く理解する）
 - ・明るい挨拶、気持ちのよい返事と姿勢の励行（あいさつ運動）
 - ・**役割をもたせ、自分が役に立つ経験の積み重ねを**
 - ・いじめのない友だちづくりと進んで相手と関わる力の育成
- （いじめ防止基本方針、いじめアンケート、教育相談、Q-Uテスト、異学年交流など）
- ・道徳の時間の充実、キャリア教育の充実
 - ・児童相互の関わり合いを通じた自己有用感を高める活動（児童会、縦割り班活動）

「授業づくりでは」

- ・聴く力、読む力、書く力、考える力を身に付けさせる指導の工夫
- ・学びに向かう力や人間性につながる言葉を大切に言語活動（ことばの指導、言海）
- ・対話的な授業形態を意識し、考えを話し合う場の設定
- ・互いのよさを引き出し、生かす学習の展開（他者との協働）
- ・地域と関わり合いながら学ぶ体験活動の実施（保護者、地域との連携）

他者との協働の中で、児童が自分の役割を果たす。個人の目標を達成した際に、周りの大人が認める（褒める）ことにより、成功体験を感じさせるという一連の取組を継続的に行う。

よいところを認める

誰かの役に立つ
経験

自己肯定感・有用感
の高まり

(2) 「進んで学ぶ子ども（知）」を育てるために（重点目標2）

①授業改善の推進（子どもを主語にした学びの実現）

- 3つの資質・能力（知識及び技能/思考力・判断力・表現力/学びに向かう力、人間性等）の育成を図るための授業改善
- 「主体的・対話的な学び」で授業改善を図る
- そのために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる

②諸調査結果の積極的活用

- 「確かな学力育成プラン」に基づいて、年間を通じた取組で資質・能力の育成を図る。

○学年や教科を超えた課題を洗い出し、全教職員で課題解決を目指す。

- C 結果分析から課題を洗い出す/検証可能な「重点的に育成を目指す資質・能力」の設定と共有
- A 全県共通取組を実態に合わせて、手立てとして取り組む
- P 全教職員が主体的に参画できるよう、校内の運営体制を確立
(年間に数回 CAPD サイクルが回るような計画)
- D 設定した資質・能力の育成に向けて、全教職員が授業を中心に取り組む
- C 児童の変容と教職員の取組の両面から捉えて評価する ※学校教育指導指針より

③授業研究の活性化

- 単元の身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりを実践し、研究協議を行う。
- 互見授業の目的や授業を見る視点等を校内で共有し、教師同士が学び合う場を設定する。
- ICT 活用の目的や方法、場面等について学び合う。

校内研究の充実

研究主題

手立て1

手立て2

手立て3

④家庭学習の内容の充実と習慣化

- 家庭学習については、その意義と家庭での生活を関連付けて考えさせたり、学習計画の立て方や学び方について振り返らせたりしながら個々にあった学習習慣を確立させる。
- タブレットの活用を校内に留めず、学びのツールとして家庭学習での活用についても校内で共通理解を図り、保護者の理解と協力を得ながら活用の充実を図る。

- ・「家庭学習の手引き」を活用し、授業、ミニテスト等と関連付けながら、目的意識をもたせた学習に取り組ませる。
- ・家庭学習に継続して取り組ませる工夫
(興田っ子学習カードによる全校共通化継続、家庭の協力を得る取組)
- ・家庭学習×1人1台端末…ドリルアプリ等で習熟を図ったり、興味・関心に応じて調べ学習を行ったりするなど、家庭学習の質を充実させる観点で活用する。

⑤学習の基盤となる言語能力の育成

子どもは、乳幼児期から言語を獲得していき、発達段階に応じた適切な環境の中で、言語を通じて新たな情報を得たり、思考・判断・表現をしたり、他者と関わったりする力を獲得していく。このように、言語は、学習や生涯にわたる生活の中で重要な役割を果たしている。

言語は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤として重要な役割を果たしており、言語能力の向上は、学校における学びの質や、教育課程全体における資質・能力の育成の在り方を左右する、重要な課題として受けとめる必要がある。

言語能力は、国語科のみならず、全ての教科等における学習の基盤となるものである。

1 知識・技能

・学習内容は、多くが言語を用いて表現されており、新たな知識の獲得は基本的に言語を通じてなされている。

2 思考力・判断力・表現力等

・情報を読み取って吟味したり、既存の知識と関連付けて自分の考えを構築したり、目的に応じて表現したりすることは、いずれにおいても言語を通じて行われる。

3 学びに向かう力、人間性等

- ・子ども自身が、自分の心理を意識していく力や、自らの思考のプロセスを客観的に捉える力（いわゆる「メタ認知」）の獲得は、心理や思考のプロセスの言語化を通じて行われる。
- ・言語を通じて他者とコミュニケーションをとり、相互の関係を築いていくことにより、思いやりや協調性などを育むことができる。

○国語科を要として、すべての教科等で計画的に取り組む

*思考力・判断力・表現力を育むために各教科で必要な6つの学習活動

体験から感じ取ったことを表現する活動

（活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する）

事実を正確に理解し伝達する活動

（身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する）

概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする活動

（需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす）

情報を分析・評価し、論述する活動

（文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて「○○字程度」といった条件の中で表現する）

課題について、構想を立てて実践し、評価・改善する活動

（理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする）

互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる活動

（予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う）

- ・「ことばの時間」における日常の音読指導を通して、ことばにふれ、日本語の美しさや表現する楽しさを感じる心を育成する。（朝活動「言海」、昼読書、学習発表会）
- ・学校図書館活動において、児童相互の交流、読書普及員との連携を図り、読書の内容や質、読書への興味関心を高め、集中して学ぶ姿勢や豊かな心を育成する。（読み聞かせ）

(3) 「健康でたくましい子ども」を育てるために

興田小学校児童の身体測定平均値（身長・体重）は、全国平均よりも上回っている。肥満児童の出現率は、県や市よりも高い（軽度肥満児童が多い）。また、「むし歯なし」児童が多く、市や全国の値を上回っていることは大変嬉しいことと感じる。「早寝、早起き、朝ごはん」など基本的な生活に関する協力ができる家庭が多い状況である。より、子どもたちの心と体の健康を増進していくことに努める。

①学校体育の充実（よりよい運動習慣：運動好きの子どもをより一層増やす）

- 運動能力等の実態を踏まえた教科体育の充実、年間を通した体力づくりを進める。
(新体力テストの結果からみえる課題点、マラソン、縄跳び、外遊び、60プラスプロジェクトの推進)
- 6年間を通した、各領域の運動経験の積み重ね

②健康教育の充実（望ましい食習慣の形成 規則正しい生活習慣の形成）

- 保健・安全・給食の指導を通して、健康の維持・生命尊重の態度と安全意識を高め、自己管理能力の育成を図る。
 - ・望ましい食習慣の推進（食に関する指導、健康によい食事のとり方）
 - ・運動習慣に関する取組（保健：保護者・児童との面談を通した肥満解消や生活リズム改善への意識化、HKJの継続）
- ・生活習慣の向上（興田っ子学習カードによる早寝の取組の継続、情報モラル教育、居間8ルール）
- ・メディアコントロールが健康に大きくかわることの学習や家庭教育学級の計画
- ・歯科保健指導の継続と充実
- ・薬物乱用防止教室の実施

6 特別支援教育の推進

本校には、さわやか学級（知的障がい学級、自閉症・情緒障がい学級）がある。児童の困り感に寄り添い、保護者と密に連携しながら適切な就学、学習環境の提供、進路指導に向けて全教職員の理解のもと、特別支援教育を行っていく。また、通常学級内においても、特別な支援を必要とする児童が見受けられる場合には、特別支援コーディネーターを中心に対応について検討しながら進めていく。

- ・就学に関する保護者への事前の情報提供と就学支援を行う。
- ・個々のケースについて校内特別支援コーディネーターを中心に共通理解し、市特別支援コーディネーター、支援学校等関係機関と連携して支援を行う。
- ・校内特別支援コーディネーターを中心に「各種校内委員会」「個々の支援計画作成」「交流学級との連携」「関係機関との連携」「特別支援教育研修会」等を推進していく。

7 地域に開かれた学校づくり、家庭や地域から信頼される学校づくりの推進

(1) 明確な達成目標を掲げ、家庭・地域と協働する開放的で個性的な学校づくり

①検証可能な目標達成型の学校経営の推進（まなびフェスト）

②学校・家庭・地域との連携・協働による教育の推進

→ 「まなびフェスト」を活用した「学校評価」の取組

★副校長、各分掌主任が中心となり、まなびフェストを策定し、具体的な内容と評価方法を明確にし、全職員の共通理解のもと、CAPDサイクルで改善を図りながら取組を進める。

③学校運営支援協議会の開催

(2) 学校安全の確実な推進

- ①学校安全計画及び危機管理マニュアルの策定・検証の徹底と教職員の研修の充実
- ②学校教育全体を通じた安全教育の推進（避難訓練、引き渡し訓練）
- ③学校安全に関する CAPD サイクルの確立を通じた事故等の防止（興田小危機対応マニュアル）
- ④家庭・地域、関係機関等との連携、協働による通学時の安全確保（交通安全、スクールバス指導、熊被害防止等）

8 教職員の働き方改革

- 教職員事故（交通事故・違反、その他のコンプライアンス違反）を起こさないために、心に余裕がもてる働き方を推進する。
- 校務支援システムの活用による業務の効率化を図る。
- 業務改善の視点を常に持ち、行事の反省や会議の持ちかた、教育課程の編成を行う。
- 会議の精選を行い、会議の回数削減、時間短縮を行う。
- 計画的な年休取得を促進する。

大東支所・地域コーディネーター(松田恵美子さん)の協力を得て、主に「総合的な学習の時間」に学習ボランティアさんとの学びを推進している。

第3学年 (R7は2・3年生で活動)		
「わたしたちの興田川」		
学 習	ボランティア	備 考
・川での遊び体験	砂鉄川漁業組合	川の生き物
・水生生物調査		
・サケについて		稚魚の飼育・世話について
・稚魚飼育、放流		

第4学年		
「興田の特産物」(総合的な学習)		
「花壇整備」(興田自然愛護少年団)		
学 習	ボランティア	備 考
・花壇整備 (年間5回)	小西老人クラブ 15名程度	6月初旬：球根掘り
		6月下旬：花苗植え
		9月初旬：草取り
		10月初旬：草取り
		11月中旬：球根植え
・りんご栽培 (年間4回)	田渕 有季 様	①花摘み ②摘果 ③玉回し、模様付け ④収穫
・キャップハンディ 体験	社会福祉協議会 猿沢地区 丹野敦様	2月に2回実施

第5学年		
「興田の産業」		
学 習	ボランティア	備 考
・稲作	鳥海 小山美代子様	観察・田植え・はせがけ・収穫祭

学校		
学校行事		
・マラソン大会監察員 ・マラソン大会整備	・保護者 ・祖父母 ・興田地区振興会 ・子ども教室指導員 ・根っこの会	※根っこの会の方々には、マラソン大会に向けて、コースの草刈りをさせていただきました。
・挨拶運動	一関東地区少年警察 ボランティア協会 菅原信雄様 ほか	

地域活動への参加

活 動	対象学年	備 考
さなぶり芸能祭	第1・2学年	ダンス
興田地区文化祭	全校	作品展示
敬老メッセージ	R7は3年生	民生児童委員 食生活改善推進員
ひとり暮らし高齢者ふれあい訪問	全校	興田地区振興会健康福祉部会 お赤飯のパッケージ

<p>学校教育目標</p> <p>○思いやりのある子ども(徳育) ○進んで学ぶ子ども(知育) ○健康でたくましい子ども(体育)</p> <p style="text-align: center;">} なかよく、かしこく、たくましく</p>	<p>各教科</p> <p>○学び方等を身につけさせるような学習の工夫に努め、各教科の基礎的・基本的内容の確実な定着を図る。 ○児童一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図り、指導と評価の一体化を図る。</p>
<p>総合的な学習の時間のねらい</p> <p>○自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力を育てること ○学び方やものの考え方を身につけること、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育成すること、自己の生き方を考える事ができるようにすること ○各教科、道徳及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連づけ、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること</p>	<p>道徳</p> <p>○自然体験活動などの豊かな体験を通して、生命に対する畏敬の念等を醸成するとともに、児童の道徳性の育成を図る。</p>
	<p>特別活動</p> <p>○望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達を図り、個性を伸長する。 ○集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。</p>

全校テーマと育てたい力・めざす子ども像				
<p>全校テーマ 興田の「自然」「歴史」「人」とのふれあい、そして、感動</p> <p>育てたい力(評価の観点) めざす子ども像</p> <p>【かかわる力】 地域から学び、地域を大切にする子ども 【追究する力】 粘り強く課題を追究できる子ども 【表現する力】 自分の考えや意見を表現しようとする子どもを育てる。 【共に学ぶ力】 よりよいものを求めようと協働的に学ぶ力をつけさせる。 【見つめる力】 自分の生き方を見つめ、自分自身を振り返り、自分も他の人も大切にすることを育てる。</p>				
学年	3年	4年	5年	6年
めざす子ども像	課題を見つけ、目的をもって生き生きと活動する子ども	自分で見つけた課題を解決する方法を探る子ども	自分なりに見通しをもって、課題を追究できる子ども	見通しをもって課題を追究し、互いに学びあう子ども
学年テーマ	興田の自然を調べよう	興田の特産物を調べよう	興田の産業を調べよう	興田のまちづくり
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 川遊び、水生生物調査 興田川について調べよう 高齢者との交流活動 サケの稚魚飼育・放流 興田の自然を調べよう まとめたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 興田の福祉を調べよう 学校花壇の球根掘り・植え 興田の特産物を調べよう 栽培・作業体験 まとめたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊学習の取り組み 興田の産業をしらべよう 復興教育 →今、私たちにできること まとめたことを発表する。 (3. 11 特別全校集会) 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行の取り組み 地域の歴史を調べよう 地域で働く人の話を聞こう 興田のまちづくり 卒業に向けて まとめたことを発表する。
体験的な活動との関連	<p>国際理解教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国の生活や文化を体験したり調べたりする活動 日本の文化について見直したり体験したりする活動(茶道・着付け・農業体験など) 外国と日本との違いについて調査したり、追究したりする活動 			
	<p>情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の解決や探求活動、情報の収集や整理、発信する活動を通してコンピュータやインターネットなどの情報手段の操作の習得が自然と行われるようにする。 			
	<p>修学旅行 宿泊研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 仙台について知ろう(調査・体験・追究活動) ・野外炊事の方法を知ろう(体験・追究活動) 			
	<p>環境教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 水生生物調査・サケの稚魚の観察と放流(3年) ・川をきれいに(ボランティア・ポスター) 球根掘り・球根植え(4年 自然愛護少年団の活動として) 			
	<p>キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業の紹介 ・夢や希望 			
評価の方法	資料や作品の集積・活動・発表の様子・発言の記録・自己評価・相互評価・地域の方の感想・意見など			
異学年とのつながり	異年齢集団による交流活動(たてわり清掃・たてわり行事など)			
生活科との関連	関心・意欲・態度	→	発見する力	
	思考・表現	→	追究する力・表現する力	
	気づき	→	追究する力・生き方を考える力	

R7 総合年間指導計画

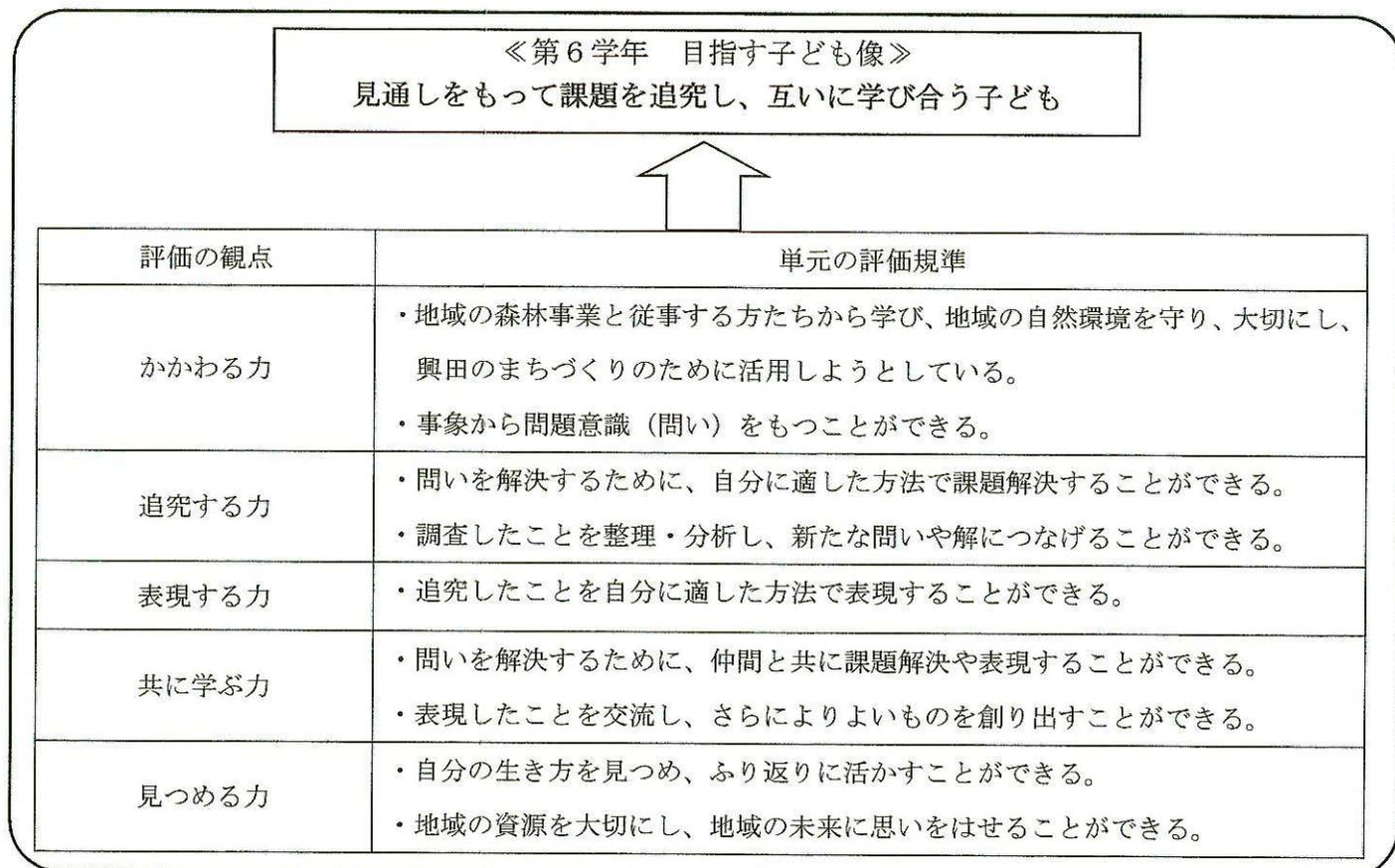
学期	月	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
1	4	オリエンテーション 1 興田の生き物について調べよう① 4 オリエンテーション	興田の特産物を調べよう(1) 課題を発見する 栽培体験活動をしよう 課題について調べる 14	興田の産業を調べよう① 13 興田で盛んな産業を調べよう 米作り 椎茸 など 体験活動をしよう	地域の歴史を調べよう(1) どんな偉人がいるだろうか それぞれの偉人について調べよう 5 高野長英 芦東山 大槻玄沢 大槻盤溪 大槻文彦 藤原清衡 藤原基衡 藤原秀衡 調べたことを発表しよう
	5	情報教育 2			
	6	わたしたちの興田川① 15 川で遊ぼう 水生生物を調べよう 水生生物調査	学校花壇の球根掘り 2 ※5月摘花 6月摘果 9月玉回し 9月収穫 9~10月リンゴ調理		仙台について知ろう 17 仙台ってどんなところ? 訪問先を調べよう 8 訪問しよう 4 修学旅行のまとめ・発表会 5
	7		情報教育 3	今、私たちにできること① 8 宿泊学習について 活動計画を立てよう など	
小計		22	19	21	22
2	8	夏休みの作品・研究について 2 情報 ローマ字入力に慣れよう 3	夏休みの作品・研究について 2 学校花壇の球根植え 1	夏休みの作品・研究について 2 今、私たちにできること② 5 野外炊事について知ろう キャンプファイヤー など	夏休みの作品・研究について 2 地域の歴史を調べよう(2) 15 体験活動をしよう 8 分かったことをまとめよう 5 発表会をしよう 2
	9	わたしたちの興田川② 13 興田川についてまとめよう 7	興田の特産物について調べよう(2) 18 栽培体験活動をしよう リンゴを使って調理しよう リンゴ栽培について調べたことをまとめ、発表しよう お礼の手紙を書こう	興田の産業を調べよう② 10 興田で盛んな産業を調べよう 収穫 体験活動をしよう まとめ 体験活動をしよう	
	10	サケについて調べよう 4	学校花壇の球根植え 1		興田のまちづくり 12 課題作り 情報収集 整理・分析 まとめ・表現
	11	高齢者との交流活動 2	学校花壇の球根植え 1		
	12	興田の自然について調べよう② 13 小黒滝 山菜 など 分かったことをまとめよう 発表会をしよう	福祉について考えよう 10 身の回りの「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を探そう キャンプハンディ体験をしよう 分かったことをまとめよう 分かったことをまとめよう 発表会をしよう 組織作り	今、私たちにできること③ 16 大震災について調べよう 4.8 被災地を訪問しよう 4.2 私達にできることを考えよう 3.6 分かったことをまとめよう 3 発表会をしよう 2.4	卒業に向けて 4 地域からわたしの未来へ 2 将来の夢をまとめよう 2
	小計	33	33	33	33
3	1	わたしたちの興田川(3) 8 サケを育てよう 5 川と環境について考えよう 3	私たちの学校をつくろう 4 学校の組織について学ぼう どんな学校にしたいか考えよう 組織作り	私たちの学校をつくろう 5 学校の組織について学ぼう どんな学校にしたいか考えよう 組織作り	卒業に向けて 13 地域からわたしの未来へ 3 将来の夢をまとめよう 4 感謝の気持ちを表そう 6
	2	情報 ローマ字入力に慣れよう 2	お世話になった方に感謝を伝えよう 分かったことをまとめよう 発表会をしよう 感謝を伝えよう 7	今私たちにできること④ 4 伝えよう	
	3	感謝を伝えよう 3 6年生へ感謝の気持ちを表そう	感謝を伝えよう 5 6年生へ感謝の気持ちを表そう	今、私たちにできること 6 6年生へ感謝の気持ちを表そう	
小計		15	18	16	15
合計		70	70	70	70
標準時数		70	70	70	70

第6学年 総合的な学習の時間活動（案）

- 1 単元名 「森林と共に生きる」（地域で働く人の話を聞こう・興田のまちづくり）
※緑の少年団の関連活動（必修単元）
- 2 単元目標
- ・興田の森林について調べる活動や森林事業に携わる人との交流を通して、自然環境保護や愛護に関心を持ち続ける態度や、森林事業に携わって興田のまちづくりに取り組む人々の思いに心を寄せようとする態度を育む。
 - ・自然保護や愛護の視点から、今、自分が取り組めることを考え、実践しようとする社会参画の態度を育む。
 - ・キャリア教育の視点から、興田の地場産業に携わる人々の仕事や思いを知り、これからの興田のまちづくりについて関心を高める。

- 3 教材観
- 一関市の森林面積は約7万8千ヘクタールと総面積の約6割を占め、私有林人工林面積は、全国26位の広さを誇っている。また、興田地区では「林業祭」の開催や地域おこし協力隊（京津畑集落）として自伐型林業を推進する方々があり、森林事業と地域とのつながりも深い。興田小学校においても木材がふんだんに使われ、「けやきホール」のように特別教室に木材の名称を用いるなど、森林や木材のよさを感じながら児童が学べる環境となっている。以上のことから、本教材は、自然保護や愛護、地域のまちづくりや働く人の思いを知るのに適した教材といえる。

4 活動構想図



5 単元計画（例）全 10 時間設定

- 指導者のねらい -

- 児童の思い -

次	時	学習事項	評価
1	1	○興田地区の自然（森林）のよさや魅力について話し合い、単元の問いをつくる。 ・林業祭について ・けやきホールについて ・木材校舎のよさ ・知っている木について	【かかわる力】 ・地域や身近な森林とのかかわりに興味や関心を高め、問いをもつことができる。 (第1課題) <u>興田の森林について知ろう。</u>
	2	○森林についての情報を収集する。書籍やインターネットで調べたり、聞き取り活動を行ったりして情報を収集する。 ・木の名称 ・林業祭について ・林業とは何か ・林業に詳しい人はだれか	【追究する力】 ・適切な方法で、課題解決のための情報を収集することができる。
2	3	○情報を整理・分析し、今後の追究課題の方向性を定める。 ・地域おこし協力隊（京津畑） ・林業祭を企画・運営する方	【かかわる力】 ・集めた情報を整理・分析し、より詳しく興田の森林事業について調べようとする課題意識を高めることができる。 (第2課題) <u>地域おこし協力隊の方々に話を聞こう。</u>
	4 ～ 5	○地域おこし協力隊の方々から話を聞き、取組やその思いについて考える。 (講話や見学)	【追究する力】 ・地域で林業に取り組む人々の活動や思いにふれ、共感することができる。 ・林業の様子を見学し情報収集することができる。
3	6	○収集した情報を交流し、自分達に今できる事はないかを話し合う。 (例) ・森林保護や愛護 ・自然保護や愛護 ・校地内、校区周辺環境整備 ・啓発活動	【かかわる力】 ・林業の推進と地域振興につながるような活動に関心を高め、自分たちができることは何かということについて課題を設定できる (第3課題) <u>自分たちにできることを考えよう。</u>
	7	○行動計画を立てる。 (例) ・ポスターを作成し、林業祭で掲示 ・リーフレット、パンフレットを作成し、市民センターに置いてもらう。 ・校地内の環境整備	【追究する力】 ・自分達の活動を計画し、実現可能性や効果、批判的に検討し、活動を修正したり見直しをもったりしている。
	8 ～ 9	○計画したことを実行する。 ・表現活動 ・協働活動 ・交流活動 ・環境整備活動	【表現する力】【追究する力】
	10	○自分達の活動を振り返る。 ○クラス全体で交流し、新しい考え方をもちた自分に出会う	【見つめる力】 ・活動を振り返り、これからの自分の考え方の変容を伝え合うことができる。

自然豊かな興田の魅力をふり返り、「森林事業」や「木材活用」に目を向けさせたい。

単元の問い・自分の問いにたいして、多様な方法で調査や情報収集に取り組ませたい。

収集した情報を、整理・分析し、事業に携わっている人に目を向けさせたい。

森林事業に携わる方から話を聞き、仕事や取組の内容やその思いや願いを捉えさせたい。

森林や自然保護や愛護、興田のまちづくりに向けて、自分たちでできそうなことはないかを考えさせたい。

行動計画を立て、見直しをもたせたい。その実現可能性や効果についても批判的に考えさせたい。

活動をふり返り、自分の考え方や、思いや願いを見つめ直し、成長や変容を実感させたい。

興田にはどんな自然の魅力があったかな。森林については知らないこともまだ多いな。

課題を解決するためにどんな方法で調べようかな。詳しい人もいるのかな。

京津畑の地域おこし協力隊の方は、どんな思いで、どんな活動をしているのかな。

地域おこし協力隊の方々のおかげで、森林が整えられ、まちづくりに生かされているんだな。

興田の森林や自然のために自分たちでも何か取り組めないかな。

自分たちの取組は、実現できそうかな。どのような効果がありそうかな。

単元のはじめの自分とくらべて、どのような考えや思いの変化があったかな。



“森林を小さな林業で未来につなぐ”

特集「自伐型林業」
はじめました

恵みをもたらす森林の
新たな守り手を育てる

近年、森林所有者が、伐採などの管理・
経営を自ら行う「自伐型林業」が注目されて
います。

森林は、水を蓄え、二酸化炭素を吸収し、
土砂災害から安全な暮らしを守るなど、さ
まざまな恵みをもたらしています。

また、キャンプ、紅葉狩りや森林浴など
で私たちに活力を与えてくれます。

林業は、森林所有者に代わり森林組合な
どが施業を行うのが一般的です。自伐型は
低コストで参入しやすいなどの利点があり、
若い世代の参入例が全国各地で見受けられ
ます。

本市でも、広大な森林の管理を多様な担
い手で支えるため、自伐型林業の推進に乗
り出しました。本年7月には、自伐型林業
を实践する地域おこし協力隊として3人
(大東町京津畑集落に移住)に委嘱。一関の
「山守」を育てる事業に着手しました。
今回の特集で、自伐型林業の特徴や現在
市が行っている取り組みなどを紹介します。



小型油圧ショベルによる作業進捗づくり研修

グループ協議（熟議）「地域・学校・家庭のつながりを深めるために」

【趣旨】

小グループで情報交換し、現状や課題を共有し、子供たちのために地域と学校と家庭が連携した教育活動の展開をめざします。

【話し合い方】

自由に より多く 様々な立場から 考えを出し合います。

(1) テーマ例として

A 学びフェスト結果から、子供たちの課題について、どのように考えていくか

※ 学力向上、家庭学習の定着、スマホ・ゲーム依存、熊出没等の安全対応について等

B 「総合的な学習の時間」を活用した郷土理解学習・地域産業学習の充実

※ 活動の修正・追加、地域人材の紹介・活動内容の創出等

C 自然愛護少年団活動を活用した自然環境愛護や保護、林業理解の推進

※ 地域と一緒に自然愛護活動として取組めること、学校への出前授業・講演のアイデア

(2) テーブル移動・役割分担

進行 ()

記録 ()

発表者 ()

約
1
分

(3) 1人2分程度で情報提供し、意見交換

約
1
5
分

(4) 各グループの話題報告（全体共有）

約
1
0
分